

 S-BOOSTER 2017

# 宇宙 SPACE BUSINESS ビジネス IDEA CONTEST アイデア コンテスト

---

概要報告

---

主催：S-BOOSTER 2017 実行委員会

 内閣府  
Cabinet Office, Government of Japan  
宇宙開発戦略推進事務局

 JAXA

 ANA

  
MITSUI & CO.  
三井物産株式会社

 OBARASHI

大林組

 SKY Perfect JSAT  
Group

## ★ コンテスト概要 ★

S-Booster 2017 は、宇宙関連ビジネスのアイデアを広く皆様から募るコンテスト。  
 コンテスト後、アイデアのビジネス化に向けてバックアップ。  
 応募いただいた提案は、一次選抜後にメンタリングと呼ぶ事業化促進プログラムにより、  
 メンターと呼ばれる方々から事業化のための指導を受けながら、ブラッシュアップすることが可能。  
 ブラッシュアップした提案は、最終選抜会にて大賞、スポンサー賞、審査員特別賞を授与。

### 応募テーマ

宇宙のアセットを利用したビジネスアイデア。宇宙のアセット(各種人工衛星(通信・地球観測・測位等)、有人宇宙活動、宇宙輸送等の宇宙技術やそこで取得した衛星データや運用ノウハウ等、全てが対象)を利用したビジネスアイデアであれば、どのような提案でも応募可能。既の実証されているものに限らず、将来実現すべき技術等でも応募可能。

## ★ 選抜プロセス ★

書類による一次選抜を通過したご提案に対し、メンタリングを受ける機会を提供。  
 最終選抜では、公開での審査により大賞を始め各賞を選定。

### 01 応募受付

期間: 6月16日 - 7月18日

応募受付が完了したご提案より、順次審査手続きを開始。

### 02 一次選抜

実施: 7月末

一次選抜は、実行委員会による書類選考。  
 一次選抜の結果は、7月末を目処に公表。  
 (厳正なる一次選抜の結果、15件のご提案を採択)

### 03 メンタリング

期間: 8月 - 10月

一次選抜を通過した方(ファイナリスト)に対し、実行委員会が選任するメンターから、メンタリング(専門的なアドバイス等)を受けることのできる場を用意。メンタリングは双方の合意の下で行う。

### 04 最終選抜

開催日: 10月30日

ファイナリストによる公開プレゼンテーションを nicofarre(ニコファーレ)にて実施。プレゼンテーション後、審査を経て大賞や各賞を発表。

## ★ 審査ポイント ★

審査項目	審査ポイント
実現性	事業化が可能な案件であること。 (例) 既にあるものを活用した新しい事業提案。 実証前技術であっても、それを実現する道筋がある。
収益性	将来的に収益の見込める内容であること。 (例) 具体性のある事業計画(市場分析やリスク分析等) もしくは、将来性が期待される内容(新規市場の創出)
革新性	これまでにない新しい発想に基づき、宇宙という素材を活用した新たな製品・サービスを創出する内容であること。 (例) 既存の宇宙ビジネスに新たなインパクトを与える提案。 他分野が抱えるビジネス上の課題の解決に結びつく。
発展性	事業化により、社会全体への波及効果が期待できるものであること。 (例) 宇宙を利用していなかった様々な層を取り込んでいける。 地球規模課題への貢献、国民生活の向上への寄与。

## ★ メンタリング概要 ★

一次選抜を通過した方（ファイナリスト）に対し、実行委員会が選任するメンターから、メンタリング（専門的なアドバイス等）を受けることのできる場を用意。メンタリングは双方の合意の下で行う。

### メンター一覧



**青木 英剛**

グローバル・ブレイン株式会社  
宇宙エバンジェリスト



**飯島 ツトム**

CO-WORKS代表



**石田 真康**

A.T. カーニー株式会社 プリンシパル/  
一般社団法人SPACETIME 代表理事



**上原 高志**

三菱東京UFJ銀行  
イノベーションラボ 所長



**内田 研一**

NPO法人  
イノベーションネットワーク  
副理事長



**小笠原 治**

株式会社ABBALab  
代表取締役



**小泉 文明**

株式会社メルカリ  
取締役社長兼 COO



**合田 ジョージ**

株式会社ゼロワンプラスター  
共同代表



**小正 瑞季**

リアルテックファンド  
業務執行役グロースマネージャー



**佐野 直人**

株式会社 O2  
ゼネラルマネージャ



**橋本 英樹**

(DECK HASHIMOTO)  
スカパー JSAT 株式会社



**濱地 健史**

株式会社ゼロワンプラスター  
執行役員・チーフディレクター  
O1 事業創造研究所 所長



**早川 典重**

ハガミノモリデザイン  
(株式会社羽神の森)  
創業者及び CEO



**松田 一敬**

合同会社 SARR  
代表執行社員



**三宅 正人**

産業技術総合研究所  
イノベーションコーディネータ



**宮野 公樹**

京大大学学際融合教育研究推進  
センター准教授



**鷲見 健司**

タチカラホールディングス  
株式会社  
代表取締役会長



一般社団法人  
TXアントレプレナーパートナーズ



国立研究開発法人  
宇宙航空研究開発機構  
(JAXA)



ANA ホールディングス  
株式会社



株式会社大林組



スカパー JSAT  
株式会社



メンタリング風景



## 🌐 最終選抜会

日時 | 2017年10月30日

場所 | 六本木ニコファーレ

応募開始から約1ヶ月かけた募集期間に300件を超える応募があった。応募者としては、企業に所属する社会人だけではなく、学生や主婦など様々な人から応募があった。その中から、事前の書類選抜、1次選抜で選ばれたファイナリスト15組。このファイナリストたちが3分という短いプレゼン時間を使って各々の提案を会場に、そしてネットを通じて会場

の外に伝え、大賞獲得を競った。開会から閉会までのすべてがニコニコ生放送でネット配信され、当日は13,000人以上もの視聴者がその様子を見守った。通常の宇宙関連のイベントと比べたらその人数は桁違い。また、会場に集まったメディアは40社以上。非常に注目度の高いイベントとなった。

### <ゲスト審査員>



- 審査員長 村上 憲郎氏  
(元Google日本法人名誉会長、  
株式会社村上憲郎事務所代表取締役)
- 特別審査員 夏野 剛氏  
(慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科  
特別招聘教授)
- 特別審査員 山崎 直子氏(宇宙飛行士)
- 審査員 津田 佳明氏(ANAホールディングス株式会社)
- 審査員 渋谷 淳一氏(三井物産株式会社)
- 審査員 梶田 直揮氏(株式会社大林組)
- 審査員 小川 正人氏(スカパーJSAT株式会社)
- 審査員 松浦 直人氏(宇宙航空研究開発機構JAXA)



松山 政司氏  
(内閣府宇宙担当大臣)

受賞者への祝辞とS-Booster等のこれからについて述べる、松山大臣

厳正なる審査を経て大賞（賞金 300 万円）×1 件、スポンサー賞（賞金 100 万円）×4 件、審査員特別賞（賞金 10 万円）×2 件を選出した。

## ★ 大賞 ★

発案者

松本 紋子氏



### 「超低高度衛星搭載ドップラーライダーによる 飛行経路・高度最適化システム構築」

衛星観測で大気の動きを検出し、航空機の飛行航路を最適化する提案。航空機の燃料を1%削減することができると、1年間の経済効果は3000億円以上になる試算だ。使用するドップラーライダーとは、周波数の変移により対照の移動速度などを観測する衛星搭載のレーザー。観測地点が少ないため海洋上では風予測が難しかったが、衛星観測を用いることで可能にした。

＊ スポンサー賞 ＊

〔 ANA(エーエヌエー)ホールディングス賞 〕



発案者  
石北 直之 氏

「嗅ぎ注射器 宇宙へ」

わずか150gの吸入麻酔器の提案。本来、120kg以上ある麻酔器を150g程度まで小型化、宇宙空間への運搬が可能な形にした。設備が整っていない場所でも簡便かつ安全に麻酔を行うことが出来るのが特長。

〔 三井物産賞 〕



発案者  
羅針盤

「衛星測位 × セキュリティ  
(未来に向けた安心な測位)」

位置情報受信端末にセキュリティ機能を与える提案。位置情報の精度が増す今後のセキュリティインフラを構築し、自動運転、無人ドローン宅配などの際に起こりうるハッキングリスクを低減する。

〔 大林組賞 〕



発案者  
TRY FORCE

「宇宙テザー技術を使った  
宇宙環境計測技術の開発」

超小型衛星をテザー(ひも)で結び、蜘蛛の巣上に展開する提案。巨大な人工衛星群として、磁気嵐などの環境計測や地球観測、宇宙デブリ観測、深宇宙探査などに利用することが出来る。

〔 スカパーJSAT(ジェイサット)賞 〕



発案者  
松本 紋子 氏

「超低高度衛星搭載ドップラーライダーによる  
飛行経路・高度最適化システム構築」

大賞とのダブル受賞。衛星観測で大気の動きを検出し、航空機の飛行航路を最適化する提案。観測地点が少ないため海洋上では風予測が難しかったが、衛星観測を用いることで可能にした。

＊ 審査員特別賞 ＊



発案者  
さざ波

「世界をつなぐさざ波衛星ネットワーク」

途上国や山間部など携帯電話の電波が利用できない地域に低コストの通信を普及させる提案。超小型衛星と特定小電力無線機で世界規模の衛星通信ネットワークを構築する。



発案者  
ハプティクスターズ

「力触覚技術を適用したロボットアーム  
による宇宙での作業の高機能化」

ロボットアームに力触覚技術を適用し、宇宙飛行士の作業をロボットに代替させる提案。本来宇宙飛行士が行っていた船外活動の代替を行うことで宇宙開発のコストダウンなどが見込める。

＊ ファイナリスト一覧 ＊

エントリー  
ナンバー  
NO.1

「世界をつなぐ  
さざ波衛星ネットワーク」



【チーム名】 さざ波  
【発表者】 福代 孝良 氏

エントリー  
ナンバー  
NO.2

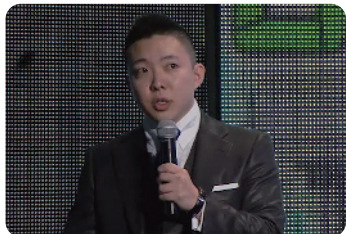
「SELENYZER」



【チーム名】 Team SELENYZER  
【発表者】 田口 紀成 氏

エントリー  
ナンバー  
NO.3

「衛星測位 × セキュリティ  
(未来に向けた安心な測位)」



【チーム名】 羅針盤  
【発表者】 宝田 直樹 氏

エントリー  
ナンバー  
NO.4

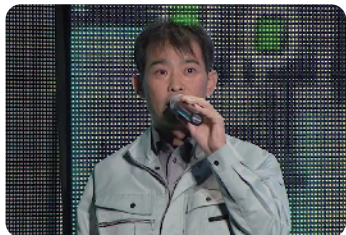
「宇宙旅行フェス」



【チーム名】 黒田有彩 withD  
【発表者】 黒田 有彩 氏

エントリー  
ナンバー  
NO.5

「高精度の衛星測位サービスを活用した  
ロボット船による 完全自動給餌システム」



【チーム名】 株式会社ロボプラス  
【発表者】 大場 正樹 氏

エントリー  
ナンバー  
NO.6

「G空間情報を活用した生態系  
エンサイクロペディア&ビッグデータ構築」



【チーム名】 生態系GO!  
【発表者】 稲野 雅則 氏

エントリー  
ナンバー  
NO.7

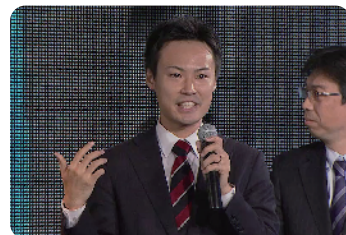
「持続可能な資源開発に向けた  
月面基地建設」



【チーム名】 Luna Treasure Seekers  
【発表者】 小田 観世 氏

エントリー  
ナンバー  
NO.8

「力触覚技術を適用したロボットアーム  
による宇宙での作業の高機能化」



【チーム名】 ハプティクスターズ  
【発表者】 野崎 貴裕 氏

エントリー  
ナンバー  
No.9

「氷と宇宙の夢の共演  
(3D宇宙アイスモールド)」



【チーム名】3D宇宙アイスモールド  
【発表者】大久保 貴之 氏

エントリー  
ナンバー  
No.10

「山林ビッグデータプラットフォーム  
『イザナミ』」



【チーム名】イザナミ  
【発表者】福代 孝良 氏

エントリー  
ナンバー  
No.11

「ツナガル次世代農業  
Smart Agri Float プロジェクト」



【チーム名】Smart Agri Float プロジェクトチーム  
【発表者】桜庭 康人 氏

エントリー  
ナンバー  
No.12

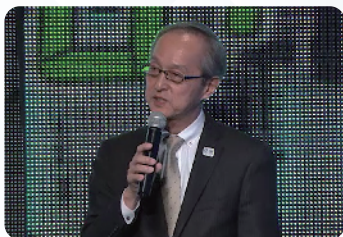
「超低高度衛星搭載ドップラーライダーによる  
飛行経路・高度最適化システムの構築」



【発表者】松本 紋子 氏

エントリー  
ナンバー  
No.13

「宇宙テザー技術をつかった  
宇宙環境計測技術の開発」



【チーム名】TRY FORCE  
【発表者】青木 義男 氏

エントリー  
ナンバー  
No.14

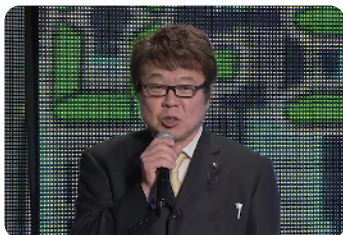
「嗅ぎ注射器 宇宙へ」



【発表者】石北 直之 氏

エントリー  
ナンバー  
No.15

「地方行政による  
地球観測データの業務利用促進」



【チーム名】We OS  
【発表者】稲垣 崇 氏

## 広がる宇宙ビジネス

2017年10月30日、S-Booster 2017最終選抜会は日本の宇宙ビジネスの新たな始まりとなる記念すべき日となった。

会場は多くの立ち見客でいっぱいになり、そして13,000人を超えるネット視聴者が注目するコンテンツとなった。

15組のファイナリストから発表されたアイデアはどれも革新的で実現性の高いものだった。

審査の合間に行われたトークショーでは「宇宙ビジネスの起業の機運が高まっている」という言葉が発せられ、会場も、そしてネット視聴している人々もこれに共感した。

これから事業化に向けて投資分野の活動が加速する。

このS-Boosterをきっかけに、宇宙ビジネスはますます広がるに違いない。

そして、S-Booster発のベンチャー企業が世界で活躍する将来はすぐそこまで来ている。

## S-Booster2017 実行委員会



内閣府宇宙開発戦略推進事務局では、2017年5月に「宇宙産業ビジョン2030」を取りまとめました。このビジョンに基づき、ベンチャー企業のみならず、学生や個人、異業種のアイデアなども幅広く集め、事業化の可能性検討などの支援を行っていきたく考えています。



JAXAは、宇宙産業における新たなプレーヤーを歓迎し、その事業が自立的に発展することを期待しています。宇宙開発利用を技術で支える中核の実施機関として、保有する技術等を活用した支援を実施します。



ANAは、1952年日本ヘリコプター輸送として2機のヘリコプターで創業し、2017年現在、250機を超える航空機を日々運航しています。宇宙アセットの既存事業への転用や、お客様を満足させる宇宙事業サービスの開発に力を入れています。



MITSUI & CO.  
三井物産株式会社

三井物産は、超小型衛星の開発や衛星から取得した画像を活用したサービス提供するベンチャー企業に出資参画する等、宇宙ビジネス構築に取り組んでいます。当社の様々な事業活動と組み合わせることにより、更に新しいサービスを創造することができると考えています。枠にとらわれないビジネスアイデアの提案をお待ちしています。



大 林 組

大林組は、2012年に宇宙エレベーター建設構想を発表しました。建設業の可能性を広げる、オープンイノベーションによる宇宙関連技術と建設技術の融合、発展を目指し、宇宙エレベーターの実現から、建設技術の飛躍的な革新につなげるアイデアを期待しています。



「ネットワーク化」「デジタル化」が始まってから四半世紀が経過し、産業構造や消費・生活スタイルは、大きく変わり続けています。その黎明期より、繰り返してきた「チャレンジ」や「失敗」の積み重ねが、われわれの資産。その資産をいっしょに活用しながら、共に未来を創造しましょう。